アヴニール労務事務所 所長 柿野元博
http://www.avenir-sr.jp
E-Mail avenir4you@gmail.com

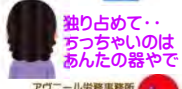
編集後記　八木重吉の「雨」の詩

６月といえば梅雨の季節ですね。
カーペンターズの「雨の日と月曜日は」という歌の歌詞に
「Rainy days and Mondays always get me down」ってありますが、雨が降らなければそれはそれで
猛暑で get me down、雨が降ればゲリラ豪雨で get me down。いい塩梅というわけにはいきません。
子どもの頃は雨が嫌いでしたが、最近はむしろ小雨くらいが丁度いいと思うのは歳のせいでしょうか。(+_+)

八木重吉
(1898 年～
1927 年)

表紙で紹介した「雨」の作者である詩人・八木重吉は、結核を患い闘病の末に２９歳という若さで
早世した中学校の英語教師です。
僕自身、会社勤めをしているときは「そっと世のためにはたらいていよう」なんて感覚は薄れて、
会社の収益のため、ただただ働いていたように思います。（それはそれで、かけがえのない経験でした）
そして改めて「雨」の詩を思い起こしたのは、約２５年勤めた会社から独立開業してからのことです。
とりわけ最初の１年は、非常勤で労働基準監督署の労働相談員をしていたのですが、それが意外と楽しく
感じたのは、その携わった窓口の相談業務が直接誰かの役に立つということを実感できたからです。
その時芽生えた「働きがい」が、今の僕を支えているのかもしれません。(^o^)

ただ、今どきの役所の窓口業務はいささか事情が違うようです。
客が悪質なクレームを行うカスタマーハラスメント、いわゆる「カスハラ」が、役所の窓口などの
自治体でも問題になっています。(@_@)
自分の思い通りにならない「腹いせ」からか、窓口対応の様子を YouTube に投稿したり、「ＳＮＳでさらす」
「名前を覚えたからな」等と脅したりする事案が増えているといいます。中には職員の実名を騙って
事実ではない情報をＳＮＳに投稿し、あえて炎上させるような悪質な事案もあるそうです。
増加する「カスハラ」対策として各自治体においてはフルネーム名札の廃止の動きが進んでいます。
そんな増える「カスハラ」被害は一般企業でも同じこと。
業種では「医療、福祉」(53.9%) や「宿泊業、飲食サービス業」(46.4%) が多いそうです。（厚労省調査）
ここに至って自民党は 5 月 16 日、顧客が理不尽な要求をする「カスタマーハラスメント」（カスハラ）を巡り、
労働者を守るための対策強化を求める提言を岸田文雄首相に提出しました。
また法制化されるハラスメントが増えることになりそうですが、労働者や経営者の働く意欲を削ぐ
「カスハラ」を防ぐ対策は、避けてはとおれない時代の要求といえそうです。

八木重吉の「雨」の詩は、聖書にある「地の塩」に通じるものがあるように感じます。
「塩は食べ物に味をつけたり食べ物が腐敗するのを防いだりして、人間の生活にとっては欠かせないもの。
それでいて、その塩が大地にまかれていたとしても、そのことに気づく人はいない。」
つまり、世の中にあって貴重な働きをしているものの、その働きそのものは決して華々しくなく、地味で
目立たない。それがイエス・キリストが弟子たちに送った言葉として伝えられている、「地の塩」です。
「雨」の詩や「地の塩」のように、そっと世のために働く人がいてくれて、社会は回っています。

先日、息子夫婦が子どもを連れて泊りに来た日の深夜のこと。
かすかに聞こえる赤ちゃんの泣き声に気づきリビングを覗くと、今や父親となった息子が
僕らを起こさないよう物音を立てずにミルクを作っていました。(@_@)
「起こしてごめんよ」という小声の息子は、約３０年前夜泣きをして悩ませてくれた当事者です。
子育ても親にとって大切な仕事。なんでもないことですが、少しくらいはそっと世のために
働く大人に成長してくれてるのかなと「がんばれよー」と声をかけて、ちっちゃな幸せを感じ
ながら布団に戻りました。あ、うちの奥さんは朝までずっと寝てたみたいですけどネ。 (^^ゞ